

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		09 04 10	中期総合計画主要施策番号		2-03		担当課	部・課	農政部園芸畜産課	
事業名		乳用牛群検定普及定着化事業				内線		3174		
						E-mail		enchiku@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	酪農家が乳量、乳質等に関する能力検定のデータを活用し、優良雌牛の選抜・保留等を推進することにより、高品質生乳の効率生産を拡大する。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 乳価の低迷及び飼料価格の高騰等に対応するため酪農家の生産性を向上させる必要がある。								
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 乳価の低迷及び飼料価格や諸資材の高騰等により酪農家の生産意欲が減退している。								
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 農家にとって理解しやすい検定成績の分析加工と成績に基づく改善指導を行う必要がある。 畜産試験場(情報分析センター)を中心とする地域指導機関が一体となった指導体制の構築が必要である。								
	事業内容	情報分析センター(畜産試験場)における牛群検定成績のデータ分析と地域酪農サポートチームによる飼養改善技術指導 乳用牛群検定員の養成及びレベルアップのための講習会の開催								
実施期間	S49 ~	根拠法令等	長野県食と農業農村振興計画、乳用牛群検定普及定着化事業実施要領							
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
	検定実施農家の牛群改良を進める。 平成27年度家畜改良増殖目標(個体乳量:8,800kg)		・産乳能力が向上すること。 (個体乳量:H19は9,477kg)  ・牛群ドック実施農家の乳質を改善すること。 (生乳中体細胞数:H19は18.2万/ml)			・前年に比べわずかであるが向上した。 (個体乳量9,478kg(H20) 9,477kg(H19)) ・前年に比べわずかが改善された。 (体細胞数18.0万/ml(H20) 18.2万/ml(H19))		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	532	532	532	国庫・県単	県単		
	決 算 額 (B)		千円	532	532		実施方法	直接		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	532	532	532	歳出節別			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	1.15	1.30	1.30	内訳等	需用費 267 役務費 265		
	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	8,743	9,826	9,826	(単位: 千円)			
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	牛群検定農家数		戸	118	115	120	・情報分析センターの機能強化 ・地域酪農サポートチームによる重点指導を実施(代謝プロファイルテスト:牛群ドック)。			
	牛群検定頭数		頭	4,968	4,739	4,900				
	1頭あたり年間乳量		kg	9,477	9,478	9,500				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・乳価の低迷、飼料価格高騰等により酪農経営が圧迫されていることから、生産性を高めるための遺伝的能力の向上、乳質の向上へのニーズは高まりしている。 ・乳用牛群検定加入率を高めるため、引き続き情報分析・指導体制を強化する必要がある。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		情報分析センターのデータを活用して地域酪農サポートチームが重点指導を行い、牛群改良や乳質改善等が図られてきている。 その結果、検定農家の産乳(乳量)成績は、県の改良増殖目標を上回っている。今後も事業を継続実施し、飼料価格の高騰に対する酪農家の生産性向上を目指す。 乳用牛群検定加入率を高めるため、引き続き情報分析・指導体制を強化する必要がある。							